

隨泉寺寺報

平成 22 年（2010 年）1 月号 第 473 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

御正忌報恩講法要

講師 住職自修

講題 『御伝鈔について』

新年明けましておめでとうございます。

私はこの 4 月 6 日に還暦の誕生日を迎えます。30 歳のとき隨泉寺に入寺しましたので、ちょうど人生の半分をこのお寺で生きさせていただくことです。アツという間の 30 年でした。「一生過ぎやすし」は、蓮如上人の「白骨の御文章」の一節です。この次に続く言葉は、“われや先、人や先、今日ともしらず、明日ともしらず”です。若いからといって命の保障などありません。「一生過ぎやすし」だからこそ、一年を、いや一日一日を、大切に生きてゆきたいものです。

私の同級生達は、順次定年を迎えてリタイアしているところですが、私はリタイアする訳には参りません。何としても踏ん張らねばならないと思っています。今年は庫裏の修復にも本格的に取り組んでいかねばなりません。ただ、還暦ともなりますと、だんだん若い頃とは体力的には踏ん張りが利かなくなってきたなあという実感があります。また若い頃には何の根拠もないのに自信だけがありました、自分の力不足がわかってきて、情けなくなります。

1 月の法座予定

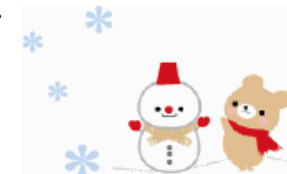
- 1 月 10 日 掃除 鴨の巣
- 1 月 14 日 昼席午後 1 時より 御正忌報恩講法要
- 1 月 14 日 夜席午後 7 時より おたんや（大速夜）御伝鈔上巻拝読
- 1 月 15 日 朝席午前 10 時より 御正忌報恩講法要 御伝鈔下巻拝読 おとき
- 1 月 15 日 昼席午後 1 時より 御正忌報恩講法要 御俗鈔拝読 新年互礼会
- 1 月 23 日 午後 1 時半より 仏婦役員会
- 2 月 2 日 午後 6 時より 門信徒会本部役員会

☆ 隨泉寺門信徒会会長 鍋本光信

新年おめでとうございます。

皆様方にはご家族お揃いで新年をお迎えのことと存じ、心からお慶び申し上げます。昨年は大変お世話になりました。国政においては政権交代があり、この不況の中、期待と不安が入り混じった昨今であります。さて今年、隨泉寺の庫裏の修復という大事業がございます。門信徒の皆様のご協力により立派に竣工させたいものです。そしてお念仏の道場として益々繁盛し、御法儀が広まることを念じています。本年もどうぞよろしくお願い致します。

南無阿弥陀仏



合掌

☆ 隨泉寺門信徒会婦人部部長 太尾田道子

迎春

明けましておめでとうございます。

皆様にはよき新春を迎えられ、お健やかにお念仏ご相続のこととお慶び申し上げます。旧年中は門信徒会修徳仏教婦人会活動にご協力ご尽力賜り、まことにありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



2012（平成 24 年）1 月 16 日は宗祖親鸞聖人 750 回の忌日に当たります。「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」とお言葉があります。

生まれてきてよかった、生きていてよかった「命のつながりを大切に」生かされている命「浄土真宗の教章」（私の歩む道）浄土真宗の生活信条「仏様の願い」に「お聴聞を重ね」皆様とともにお念仏に遇わせていただくことのできるよろこびをうれしく思っています。

新しい本「今の世に生きる（親鸞）」聖人に出会わせていただきたいと思っています。出版されました本をして願い（いのちのつながり）を共有できる出来る機縁になればと思います。

生かされている今を大切に、み仏のみ教えに手を合わせ、お念仏もうし、ご恩報謝の日暮をと思っています。

極楽は 日に日に近く なりにけり

あわれうれしき 老いの暮れかな（法然上人）

今年も聴聞を重ね聖訓の足元にたどり着きたいと（少しだけ）思っていることです。

合掌

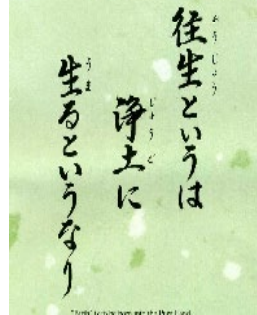
平成 22 年元旦

一月 往生というは 浄土に 生るといなり

『尊号真像銘文』（註釈版聖典 656 頁）

浄土は阿弥陀仏土のことです。私たちの常識では、浄土はすぐには納得しにくい世界です。そのために、私たちの世界を立派な浄土にする、また心を清らかにして、心の中に浄土をつくるという見解も出そうです。

この世界を良くすることは大切なことです。環境にしても、資源にしても、少しでもいい方向に行くように努力することは、忘れてはならないことです。だからといって、よりよい世の中をつくったとしても、自然に煩惱が滅して、さとりにいたることは難しそうです。



心を清らかにすることは、仏教的に言えば、煩惱をなくすことです。煩惱は百八あるといいますが、自分中心の心が根本的な煩惱だといわれます。誰もが自分中心の心で行動しますと、それぞれの心が異なりますから、多くの問題が起こります。だから、心を清らかにするには、自分中心の心を取り除けばいいこととなります。もし、相手の立場に立つことがこの心を取り除くことだとしますと、例えば、満員電車で座っていて、目の前にいる人が疲れ切った表情をしていれば、相手の立場に立って、席を譲ることはできます。しかし、相手の立場に立ったつもりが、そうではなかったということは

しばしばあります。また、相手が一人ならばいいのですが、多数の場合は、それぞれの立場に立つことはできません。このように考えますと、私たちは、自分中心の心から離れることはできません。

ただ、満員電車の例のように、私たちが相手の立場に立つことができたり、立とうとすることは素晴らしいことです。

また、自己中心の心に気付きながら、世の中に役立つことをすることも素晴らしいことです。

浄土とは、文字 清浄なる土です。清らかな世界、煩惱のない世界、煩惱があったとしても、その煩惱を清らかにしていってくれる世界が想像できます。浄土は極楽、ともいいます。楽は楽しいという意味と、楽という意味があります。

したがって、浄土とは、心が清浄であることが極めて楽しく、楽な世界だといえます。

ところが、私たちが考える極めて楽しい、極めて楽である世界は、自分の欲望が十分に満足された世界です。その点から考えると、浄土が極楽であるという世界は、自分中心の心から離れられないこの世界にはないということになります。

往生は往きて生まれるという意味です。親鸞聖人が「往生といふは 浄土に 生るといなり」といわれるのは、浄土はここにはないということを示されているように思われます。

その裏では、往生は私たちがはからうのではなく、阿弥陀仏の私たちに浄土に往生させるという願いにまかせよと聖人はいっておられるような気がします。

☆井原の岩崎 保夫・幸子さんは

去年そろって 88 歳の米寿と 77 歳の喜寿、それと娘婿の山本さんの還暦とめでたいことが三つ重なったので、お孫さんたちがお祝いをしてくれたそうです。家族みんなで九州へ旅行に行かれました。真を見せていただいたら、笑顔 笑顔で本当に楽しそうな旅行です。幸せというのはこんなことかもしれません。



あれもしたい、これも見たいと夢ばかりが膨らんで、限りあるいのちの重さ不思議さを噛みしめることが少なくなったような気がします。「仏法には明日ということあるべからず」ということばが思い起こされます。真を見せていただいた僕まで楽しくなりました。

☆上平原の原文子さんは

永年老人会のお世話をしてこられたのを表彰されました。人のお世話をするということはなかなか大変です。広島を代表して奈良県で開催された全国大会で表彰されました。おめでとうございます。

いのちの輝きはめざすもの高さ遠さによるのではないのでしょうか。しかし、あらゆるいのちに光あれという願いは、滅びることがありません。そこにいのちあるものがあるかぎり、朽ちることも滅びることもありません。

誰かがどこかで受け継ぐからです。どんな力ともぶつかることはありません。力では滅ぼせません。それが本願です。



☆やっぱりパリに行こう：福場みどり / 福場慎二

私はパリに行ったことがありませんが、一度はパリに行きたくなる本です。またいけなくても行って住んだような気持ちにさせてくれる本です。



井原の福場省二さんの長男さんとその奥さんが二人で作られた最適な本です。とても読みやすく 真も綺麗で、さすがプロの 真家の作品です。読めば読むほどパリに行ってみたくなりました。パリに行く時はガイド本として持って行きます。次回の作品期待しています。